

新規就農者激励会



くみあいたより

JAなんぼろ



JAなんぼろホームページアドレス <http://www.ja-nanporo.or.jp>



南幌町農業協同組合

5年ぶりに夜まつり復活

8月3日(土)、エコーポの駐車場に設けられた特設会場で、JAなんぼる夜まつりを開催しました。

15時の花火を合図に各出店ブースの販売が開始し、時間の経過と共に人も増え、またたく間に会場が来場者で溢れかえりました。

露店では、スーパーボール・ヨーヨーすくい等が並び、大勢の子供たちが露店の周りを囲む様子も見られました。また、焼き鳥やポテトフライ、たこ焼き等の出店販売やキッチンカーでのケバブ等の販売もあり、各店とも大盛況でした。

ステージイベントは輪投げ大会やかき氷早食い競争などのゲームが行われたほか、「彩川あやか」さんによる歌謡ショー、「ヒロ青山」さんによるものまねショーも行われ、会場が熱狂と笑いに包まれていました。

最後は恒例のジャンボビンゴゲームが行われました。今回は南幌町で生産されているお米のほか、大賞としてよりおいしいお米を食べてもらうための炊飯器を景品として用意しました。会場の皆さんは手に汗握りながらビンゴカードを見つめ、商品獲得を目指していました。

5年ぶりに開催されたJA主催の夜まつりは、途中雨も少し降りましたが、たくさんの方が来場し、大盛況のまま幕を閉じました。



新たな農業者へ激励

8月21日（水）、JAなんぼろ3階大会議室で令和6年度新規就農者激励会が行われました。

本年の新規就農者は、「白倉誠也さん（三重・戸主白倉博幸さん）、服部恵吾さん（鶴城・所属（有）エイム）、伊藤絵莉さん（鶴城・戸主小松良樹さん）、鹿内温仁さん（夕張太西幌・所属（有）ほなみ）、井上隼人さん（川向・所属（株）ア

シル）、青木千陽さん（川向・所属（株）アシル）」の6名です。

激励会では、各関係機関より激励状や記念品が授与された後、大崎町長と林組合長より新規就農者に向けて「今回は例年に比べて新たに就農される方が多いため、新しい風を南幌町の農業に吹かせて、頑張っていたください」と激励の言葉が送られました。

また、新規就農者を代表して伊藤絵莉さんが

らは、「これからの南幌町農業を担う農業者として意欲的に農業に取り組み、南幌町農業の発展のために頑張ってください」とこれからの営農についての意気込みが述べられました。

激励会終了後には、奈良岡凌平青年部長と山形優斗4Hクラブ会長代理による各団体の説明会が行われ、新規就農者との良い交流の機会となりました。



長ねぎ選果施設稼働開始

8月5日(月)より、JA長ねぎ選果施設で令和6年度の共選作業が開始されました。

施設では、従業員の手により根切りや皮むき等が行われており、久しぶりの作業とは思えない慣れた様子でスムーズに作業をしていました。

選果された長ねぎは、南幌町産のブランド名「ねぎしゃん」の名称の入ったテープが巻かれ、葉先が折れないよう丁寧に箱に詰められていました。

長ねぎ選果施設は、11月中旬まで稼働する予定で、1日に約400ケース箱詰めされ、道内外各地に出荷されます。



令和6年度水稲カメムシ調査終了

南幌町農業指導協議会は、7月14日(日)から8月13日(火)まで、町内水稲圃場で水稲カメムシ予察調査を行いました。調査には、各営農振興組合長にご協力いただきました。

本調査は、カメムシ被害防止及び高品質米生産に向けた取り組みであり、調査の結果、例年よりも発生は多く見られたものの水田防除目安には達しませんでした。



職場を知るために

8月5日(月)から8日(木)までの4日間、令和7年度より当JAに入協を予定している大学生の職場体験が実施されました。今回の職場体験に参加した学生は1名で、JAについての基礎学習や各課で実際の業務を体験しました。体験初日は、慣れない場所ということもあり緊張した様子でしたが、JAなんぼろの温かい職場の雰囲気もあり、次第に笑顔を見せるなどリラックスした様子で仕事に慣れていました。体験した学生は、「入協する前に、JAなんぼろの雰囲気や仕事の内容などを体験することができ、大変勉強になりました」と話していました。



JA YOUTH 青年部だより

発行者
JAなんぼろ青年部
編集責任者 若杉宗樹

JA夜まつり出店

8月3日(土)、青年部ではJAなんぼろ夜まつりで焼きとうきびとお好み焼きの販売を行いました。

焼きとうきびは、南幌町産のスイートコーン「あまいんです」に網できれいに焼き色を付け、こだわりの醤油ベースのタレをからめて香ばしい仕上がりになっていました。

お好み焼きは、米消費拡大活動として小麦粉の代わりに米粉を使用するほか、長いもを入れ

ることで、もちもちの食感で食べ応えのある逸品になっていました。

焼きとうきびとお好み焼きは、販売開始後すぐに購入を求めのお客様が殺到し、焼き上がるまで待ち時間が発生するほどの人気っぷりで、大盛況で終わることができました。

お祭りを終え奈良岡青年部長は、「久しぶりの夜まつりで、時間も販売量も昨年に比べ倍となったが、無事に完売することができてよかった。我々JAなんぼろ青年部の商品を買ってくださった人が喜んでくれて嬉しい」と無事にイベントを終え安堵した様子でした。



ホクレンくるるの杜で南幌町農産物をPR

8月17日(土)、青年部ではホクレン「くるるの杜」で南幌町農産物の対面販売を行いました。当日は、4名の盟友が参加し、南幌町産野菜となんぼろピュアライスななつぼし5kg袋を用意し、南幌町の農産物を町外の消費者に販売しました。たくさんのお客様にお買い求めいただき、3時間程で完売となりました。購入したお客様からは「どのように料理したらおいしく食べられるか」、「ほかの品種と何が違うのか」等の質問に盟友が答え、終始賑わっていました。参加した盟友からは、「例年より販売数をかなり増やしたが、無事に完売する事が出来て良かった」と喜びの声がありました。今後とも青年部では、町内外の消費者と交流する機会を設け、南幌町農産物をPRしていきたいと思えます。



長船技師による営農情報！



輪作体系の考え方

連作障害の対策として、輪作を導入し土壌病原菌密度を低下させていくことと、健全に作物が生育できる土壌の化学性、物理性、生物性などの土壌環境改善対策が必要です。今回は作物連作と土壌病害について説明します。

1 土壌病害に対する耕種的対策

農作物の連作を行うと一般に土壌病害の被害が連作年数の増加に伴い拡大します。

(1) 要因

- ①連作作物の根で特定の病原菌が増殖し、残根や残渣上で生き残って連作とともに集積し、菌相が単純になり、病原菌を抑え込む微生物が少なくなります。
- ②連作下では病原菌の発病力自体が強くなります。
- ③連作下では、その作物の生育に適した施肥を続けることにより、養分バランスが崩れやすい。

(2) 輪作体系の実施と土壌病原微生物

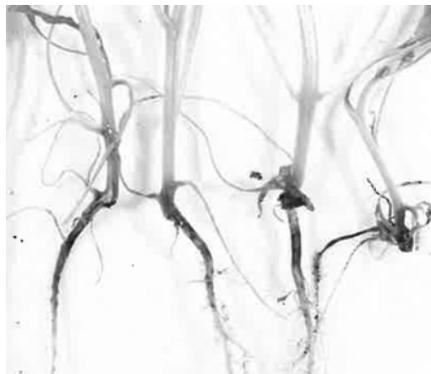
輪作体系の実施は、連作による土壌微生物の単純化や病原力の強化を防ぎ、病原菌密度の低下を図る効果があります。輪作を実施する期間については、土壌病原菌の生存期間も考慮する必要があります。表1に主な土壌病原菌の生存期間を示しました。

表1 土壌中における病原菌の生存期間

| 病原菌 | 分類 | 病名 | 生存期間(年) |
|------------|------|------------------|---------|
| フザリウム | 糸状菌 | 野菜の萎凋病、つる割れ病、根腐病 | 5~15 |
| ガエマノマイセス | 糸状菌 | ムギ立枯病 | 1~2 |
| フィトフソラ | 原生動物 | 野菜類の立枯病、ジャガイモ疫病 | 2~8 |
| プラスモディオフォラ | 原生動物 | アブラナ科の根こぶ病 | >7 |
| ピシユウム | 原生動物 | イネ、野菜類の苗立枯病、根腐れ病 | >5 |
| リゾクトニア | 糸状菌 | 野菜苗立枯病 | >5 |
| バーティシリウム | 糸状菌 | 野菜類の半身萎凋病 | 5~15 |
| ラルストニア | 細菌 | ナス科作物の青枯病 | 2~3 |



小麦立枯病



ほうれんそう立枯病



キャベツ根こぶ病

- ・輪作による発病軽減効果は、高い病原菌密度の場合効果が出るまで時間を要し、低い病原菌密度の場合より効果が期待できます。
- ・輪作は土壌中から病原菌を完全に除去するものでなく、土壌菌密度を低いレベルに維持していく方法です。

参考資料：新版 土壌診断と作物生育改善

理事会報告

8月9日

8月定例理事会で審議された主な内容について、
次のとおり報告申し上げます。

〔議案〕

1. 令和6年度産米RT搬入仮渡金および諸経費の設定について
2. 出資金の減口について

〔協議事項〕

1. 第31回JA北海道大会（組合員組織討議）に係る意見集約について

〔報告事項〕

1. 農産物の生育状況について
2. 7月末農産物の保管状況について
3. 7月末野菜販売状況について
4. 令和6年度南幌町穀類乾燥調製貯蔵施設小麦操業状況について
5. 令和6年度南幌町穀類乾燥調製貯蔵施設水稻操業計画について
6. 大口貸付先の令和5年度経営状況について
7. 令和6年度JA共済コンプライアンス点検結果について
8. 7月期JAローンの貸付について
9. 内部監査の実施報告について
10. 令和5年度JAグループ北海道からの配当状況について
11. 空知管内JA役員研修会の開催について
12. マネー・ローンダリング等および反社会的勢力との取引排除に係る対応状況について
13. ヘルプラインの運用実績について
14. 7月末財務状況について

表紙の紹介

◎今月号は、新規就農者の皆様に表紙を飾っていただきました。



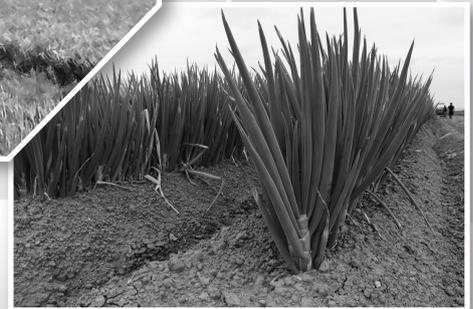
新規就農者激励会

南幌町 フォトコーナー



▲水田にタンチョウヅルが2羽遊びに来ていました。

▼長ネギがすくすくと育っていました。(南NOAH)



私達のJA

令和6年7月末日現在

組合員 2,627名
(前年同期比 ▲44名)

正組合員 418名
(前年同期比 ▲16名)

准組合員 2,209名
(前年同期比 ▲28名)

正組合員戸数 262戸
(前年同期比 ▲11戸)

編集後記

8月になり、蒸し暑い日々が続く季節となりました。台風の発生も活発になってきており、天候が不安定になっていますが、焦らず、急がず、十分に注意をして農作業を行ってください。

くみあいだより担当の上地は人生で初めて麦の脱穀をしました。



発行 JAなんぼろ 〒069-0293 空知郡南幌町栄町1丁目4番7号
TEL 011-378-2221(代表)、011-378-2274(直通) FAX 011-378-0846 発行日 令和6年9月1日
ホームページ http://www.ja-nanporo.or.jp メールアドレス koho@ja-nanporo.or.jp
企画・編集 営農部農業振興課 印刷 ㈱トリムシステム